

知立市まちづくり委員会 報告書
(中間報告)

令和6年6月24日

1. まちづくり委員会開催状況

今期の委員会は令和5年11月1日に立ち上がり7回の会議を行ってまいりました。会議メンバー6名すべてが現役ボランティアであったり福祉に携わった経験のある者であることから、今期委員会のまちづくりテーマは「福祉」を中心に研究してまいりました。

《令和5・6年度 まちづくり委員会の経過》

開催年月日	内 容	
令和5年11月6日(月)	第1回	・辞令交付 ・委員長、副委員長の決定 ・委員会の進め方について協議
令和5年12月19日(火)	第2回	・知立駅前関連事業の概要について市担当課から聞き取り調査 ・委員自らが市民活動中に感じていることについて意見交換
令和6年1月16日(火)	第3回	・知立市の高齢者、障がい者の外出支援事業の現状について市から聞き取り調査 ・委員自らが市民活動の中で感じていることについて意見交換
令和6年2月20日(火)	第4回	・知立市の高齢者、障がい者の外出支援事業の利用状況等を市担当課から聞き取り調査 ・高齢者・障がい者の生活実態と各ボランティア団体の活動状況について意見交換 ・上記から見える知立市の福祉の課題の洗い出し
令和6年3月19日(火)	第5回	・知立市の高齢者支援サービスの内容を市担当課から聞き取り調査 ・高齢者・障がい者の生活及びボランティア活動におけるそれぞれの課題の整理

開催年月日	内 容	
令和 6 年 4 月 16 日(火)	第 6 回	・ 課題のまとめ
令和 6 年 5 月 21 日(火)	第 7 回	・ 課題のまとめと中間報告書の作成

2. 現状認識

私たちが暮らす社会は年々大きく変化しています。人口減少、少子化、超高齢化、人間関係の希薄化、核家族化など私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした状況での生活は、安心して安全な暮らしを求める私たちに少なからず影を落としています。国・地方自治体による福祉施策は充実してきていますが、やはり公共による施策には財政面などの制約もあり、私たちが描く暮らしやすさ、安心な生活には至っていません。

私たちが暮らしていくには衣食住が最低限整っていることが必要です。最低限の衣食住は行政による各種施策により守られているとも言えます。

しかし、これだけでは毎日の生活は成り立ちません。私たちには定期的に食料、衣服、その他生活用品の買い物が必要ですし、生活をしていればゴミも出ます。若いときには買い物やゴミ出しは負担に感じませんが、年齢を重ねにつれ自分で行うことが難しくなります。病院通いも年齢とともにその頻度が増

えてきます。社会との関りを持つために外出は欠かせませんがその移動手段が問題です。

高齢者や障がいのある人のために介護保険制度や障がい者支援制度などがありますが、こうした制度の枠内では実際に必要な要求に応えていくことが難しいのが現状です。

こうしたことから、行政の各種福祉制度の隙間を埋めるきめ細かな援助を民間パワー（ボランティア・企業の社会貢献事業・地域住民など）で補うことが望まれています。

3. 現状の課題

現状の社会を見つめたとき、私たちは何を必要とし、何が現状に欠けているのか。これを明らかにすることにより少しでも安心した生活ができるよう改善の糸口にしていく必要があります。

そのいくつかをここに掲げます。

（1）各種公共支援制度の周知徹底と内容の充実

① 制度周知のための機会の充実

ア．制度があっても制度の内容を知らない市民がいる。制度と市民の橋渡し役が必要

イ．地域包括ケアシステムを推進するための生活支援コーディネーターの活

動内容・役割が広く周知されていない。生活支援コーディネーターのきめ細かな活躍を期待。

ウ．市民の身近な相談相手として民生委員がいるが、最近では個人情報保護や詐欺行為警戒感から十分な制度周知・援助活動に制約もある。

② 制度内容の充実改善

ア．制度利用者の意見収集と制度内容の検証、充実改善の必要性

イ．知立市福祉計画等による福祉向上のための具体的施策の充実

(2) ボランティアが行う支援制度の内容周知

ア．現在行われているボランティアによる援助制度が多くの市民に周知されていない。

イ．ボランティア活動全体の現状・内容が十分市民に周知出来ていない。

(3) ボランティアの育成と援助

ア．共働き、定年延長などによりボランティアの高齢化、後継者不足、役員のなり手不足でメンバーの減少、会の解散が加速している。

イ．小、中、高、大生など若い世代を取り込んだ活動の構築、企業の社会貢献制度との協働

ウ．ボランティア同士の積極的な連携

エ．ボランティアの活動拠点確保、資金援助

4. 課題解決に向けての研究

課題解決は一朝一夕にできるものではありません。しかし、課題を解決せずして私たちの安心な生活は成就しません。一つ一つ解決に向けて検討することこそが福祉向上に向けての一步であろうと考えます。その研究は今後において取り組んでいきたいと考えます。

令和5・6年度 まちづくり委員会 委員

氏 名	団 体 名
竹 本 有 基	(前) 知立市社会福祉協議会会長
中 野 俊 昭	知立市ボランティア・市民活動センターコーディネーター
石 橋 裕 子	こどものいばしょづくり (出張子ども食堂 with you)
太 田 茂 登 子	NPO おたがいさまの家 あいあい
都 築 み な 子	ボランティアあいタッチ
友 啓 子	知立市国際交流協会 親善ボランティア